

目次

はじめに

第一章 美術品オークションと云う世界

「オークション・ハウス・スペシャリスト」とは？

眠れる美術品と出会う旅

眼を鍛錬する

鑑定——「人を見る眼は、モノを観る眼」

有名コレクターの作品をゲットするチャンスは「3D」

個性溢れるオークション・ハウスの顧客達

アートの「見巧者」達の美意識

美術品の価格をはかる「査定」

美術品の値段はどうやって決まるのか？

オークションの心理学

オークション中には何が起きているのか？

オークションニアと云う指揮者

買い手こそが「真の主役」

第二章

私のアート半生記

一番緊張しているのは売り手？
日本美術品の史上最高価格の誕生
国宝級の仏像、ニューヨークへの旅
トップ・コレクターが持つ、歴史の一部を預かると云う意識
皆をハッピーにさせた奇跡の「仏像」
「プライヴェート・セール」で里帰りした「コレクション」達

私とアートの半世紀

「日本美術史家養成ギブス」

音楽と映画で開かれた西洋文化への扉

新しいアートとの「三種接近遭遇」

突然「和」の如く

「ニューヨークへ行きたいか？」

クリスティーズとの縁

第三章

美術品を巡る世にも不思議な物語

真贋を巡るドラマ

「流転の極み」な屏風

「命懸け」の網干図屏風

ビジネスシートに鎮座する壺

第四章 日本美術、その鑑賞の流儀

「モノ」が「モノ」を呼んだ、室町絵画

「崇りじゃ！」な仏像

「涙」を誘った南蛮屏風

「日本美術」とは一体何か？

世界は何故日本美術を評価するのか？

P・F・ドラッカーも日本美術の有名コレクターだった

奇妙な縁で繋がる美術品の流転

美術館が所蔵品を売る理由

オークションに掛かった、「日本美術の名品」達

① 在るべき場所に里帰りした「襖絵」

② 一〇九年間のアメリカ出張を終えた「香炉」

③ 再会した「チャイナドレスを着た女」

④ 中国生まれ、日本育ち、アメリカ在住の「茶壺」

アメリカの美術館が所蔵する「日本美術の名品達」

世界に誇れる日本美術品は「文化外交官」である

変化し続ける日本美術のマーケット

世界が目にする日本の現代美術

写真家の評価にみる「アート」の線引きの不思議

私の選ぶ「必見日本美術」ベスト30

第五章 審美眼の磨き方

一級の美術品は全て永遠の「現代美術」である
私のお薦め鑑賞法

「ホンモノ」を見抜く眼力の鍛え方

オリジナルが放つアウラは複製出来ない

出雲阿国からデコ携帯迄

バンクシーが投げかける意味

第六章 美意識を生活に活かす

「アートの遺伝子」の冒険

日本人として「遺伝子」を作る責任

「美術品のある部屋」のススメ

自分好みの美術品をどう飾るか？

美術品を買う事の意味

美術品との出会いは人との出会い

アートは「仕事に役立つ教養」なのか

おわりに